

「指宿枕崎線(指宿～枕崎)活用に関する検討会」 における 2024 年度の取り組みについて

1. 検討会の取り組み概要

指宿枕崎線(指宿～枕崎)を持続可能な線区とするための活用策を検討・実行し、多くの方々に選ばれる交通手段とすることを目的として、2024 年度は「指宿枕崎線(指宿～枕崎)活用に関する検討会」を計3回開催しました。検討会では、線区のご利用実態に関する情報共有や、ご利用状況を改善するための線区活用策の検討および実施に向けた協議などに取り組み、それらを踏まえ各主体にて活用策を実施した結果、多くの方々にご利用いただきました。

(検討会参加者:指宿市、南九州市、枕崎市、鹿児島県、国土交通省九州運輸局、九州旅客鉄道株式会社)

2. 主な線区活用策

いぶすきバルの開催

指宿駅前を中心に指宿地域全域でバルを2回開催し、まちなか活性化や交流人口の拡大に取り組ましました。JR 利用者には特典を付与することで、鉄道利用促進にも貢献しています。

・バル参加者 1,110 名
(うち、JR 利用者 63 名)



指宿枕崎線シンポジウムの開催

指宿枕崎線の積極的活用をテーマにした指宿枕崎線シンポジウムを開催しました。霧島神宮駅における「九州 Dream Station」の取組みや沿線高校等での取組みについてご講演いただき、指宿枕崎線の積極的利用についてのトークセッションも開催しました。

・参加者 120 名
(うち、JR 利用者 18 名)



指宿枕崎線活性化プロジェクト 「かごしま景観大賞」記念看板設置

地元自治会を中心に企業や団体が連携し、松ヶ浦駅周辺の景観を維持していることから、「かごしま景観大賞」を受賞しました。受賞を記念して松ヶ浦駅に記念看板を設置し、除幕式が行われました。



記念看板と松ヶ浦小学校の子どもたち

伐採・清掃作業を通したマイレール意識醸成

自治体や沿線の自治会、JR 九州等が一緒になって駅周辺の清掃や伐採作業を行うことで、マイレール意識の醸成に取り組ましました。

・参加者 62 名



松ヶ浦駅にて伐採作業参加者一同

全体

この他にも山川駅、西瀬娃駅の活用を促進する取組みや小学生向けの職場体験イベントなど全 11 件の線区活用策を実施し、全体の参加者等は約 2,300 名(うち JR 利用者 約 830 名)でした。